

奥多摩を調べて 伝えてみる

奥多摩町立氷川小学校 探究の学習

2024年度、奥多摩町立氷川小学校6年生の探究の時間は、自分が暮らす町について、自分自身で問いをたて、調べ、探究していくというもの。2024年11月の末から3月にかけて、15回の授業を行った。

大切にしたことは、身の周りを見直し、興味や関心を問うべき何かに深めていくこと、そして、それを人に伝えること、伝えることで生まれた新たな問いをまた問い直すことだ。奥多摩学習を通して、子どもたちそれぞれの奥多摩が表れた。授業は、担任の峯岸先生をはじめ、校内の先生方、地域の方々の参加を得て行なわれた。

今回の奥多摩学習の授業は、東京アートポイント計画（多摩の未来の地勢図 cleaving art meeting）の一環として、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人アートフル・アクションが、奥多摩町立氷川小学校の先生方や地域の方と協働しながら、子どもたちとともに進めた。本紙はその学習の記録である。

授業実施にあたって、造形作家の下中菜穂さんが、知ること、調べること、未知のものに出会うことについて、自由研究家の立場から参加した。 宮下美穂（特定非営利活動法人アートフル・アクション）

NPO 法人アートフル・アクション

東京都小金井市を拠点とする NPO 法人。

アートと出会った人が自分自身の新しい可能性を発見し、豊かな生き方を目指していくきっかけや場をつくることを目的に、市民、自治体、学校、他 NPO、企業などと連携しながら、「地域におけるアート」の可能性を追求している。

下中菜穂（しもなか・なほ）

造形作家。伝承切り紙・手仕事・歳時風俗などの研究を行う。

江戸時代の切り紙「もんきり」との出会いをきっかけに伝統的な形や伝承行事などを研究。映像百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」の活用など、研究・フィールドワークと実践を組み合わせた「知る、やってみる、問い続ける」実験的な活動を展開。旧暦カフェ」主宰。昭和のくらし博物館副館長。

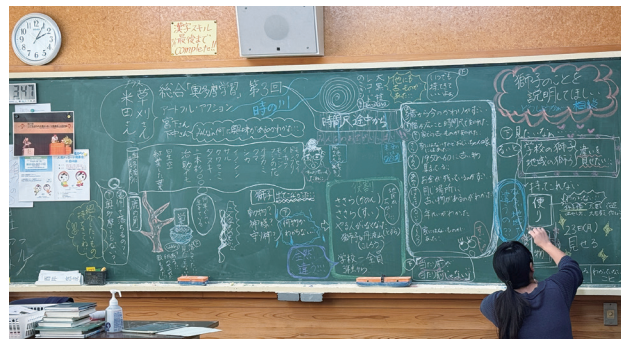
1 自分はどこに立っているんだろう

時間、空間の 広がりから考える

2024年、小学6年生、今、自分たちはどんな場所に生きているんだろう？ 何気なく毎日が続いていくなか、6年生なりに自分の場所や位置を知るため、子どもたちは少し離れたところから、**時間、空間の2つの視点**とそれが交わるところについて考えてみた。

まずは奥多摩を象徴する多摩川の源流であり、遠足に出かけたことのある「水干（ミスビ）」から、河口の東京湾までを描いた**地図**を**足がかり**にした。自分の生まれたところ、好きなどころ、自慢できるところ、家族の生まれた場所に旗を立てた。奥氷川神社や地域の御神木の三本杉、おじいちゃんの家の近くの神社や獅子舞、草花や鹿や猿などの大きな生き物から昆虫類がたくさん生息することも皆で話し合った。

もうひとつ、今の自分を時間の流れの中で見たらどうだろう？ 社会科で学ぶ歴史の中にある「時間」は**自分の足元の時間**とは少し違うかもしれない。そこで、起源0年から2050年までの目盛りを刻んだ**大きな時間尺**を用いて、子どもたち



の家にある古いもの、家族の生まれた年代、自分の誕生日などをタグ付けしていった。

空間と時間が交錯するところ、例えば、「なぜ、奥多摩に海沢という地名があるのだろうか？」という**疑問**が見えてきた。その発見は古くは奥多摩が海だったかもしれないという**想像も喚起**した。



時間尺
距離や大きさを測る物差しのように、等間隔に目盛を施して時間を物に見える「長さ」に置き換えた巻き尺。紀元0年から2050年頃まで目盛がある。必要に応じて、目盛を増やすことができる。下中菜穂作。

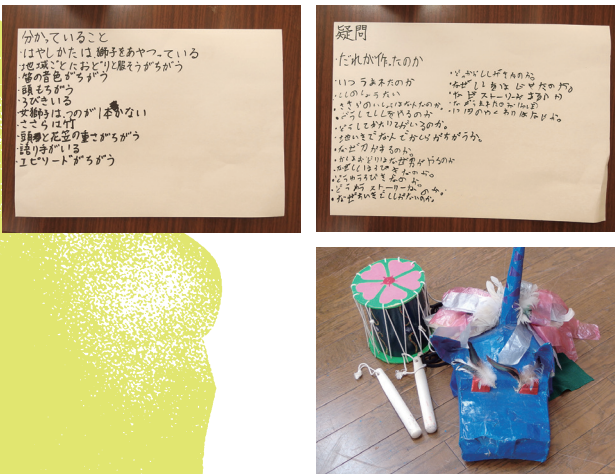
2 問いを生むレッスン

アンテナを立てる

今回の授業で大切にしたのが「**反芻**」。牛の胃を例に、考えたり、思い出したり、調べたり、また考えたり、を毎回の授業の始めに行った。反芻は振り返るだけではなく、**問いを生成**するためにもとても大切。

奥多摩町には地区ごとにさまざまな獅子舞があり、学校でも運動会で獅子舞を披露している。そこで、子どもたちが小さな頃から慣れ親しんでいる獅子舞をきっかけに**問いを立てるレッスン**をこころみた。そこでは、意識はしていないけれども、最初の授業でやってみた時間と空間の概念が下敷きにされていた。

「獅子について分かっていること」、「獅子についての疑問」を書き出してみる。少人数学級の特性で、皆で教室の隅っこに集まって、額をくっつけ合うようにして話し合った。分かっていることや疑問を紙に書いて少し遠くから離れてみるというんなことが見えてくる。それらを書き出してみたら、獅子舞をやってみた。



3 やってみる

問われることで問いが生まれる

獅子舞の笛や太鼓の音は、この町に住んでいると一年に一度、どこからともなく聞こえてくるものだろう。舞う子どもたちの仕草や身のこなしはとても鮮やかだ。総合の学習でいろいろな方向から奥多摩のことを考えながら、**獅子舞の謎も考えた**。獅子はどこから来たのか、なぜ獅子舞を舞うのか？そして次に獅子舞を近くで見たことのない大人たちの前で舞ってみて、そして皆で考えた疑問や質問を**改めて反芻**した。

問うことと問われることは反対の出来事ではなく、問われることは**問いを深める**ことにもつながっていく。「ささってなんですか？」「笛はどんなふうに習うの？譜面はあるの？」。獅子を見た大人から発せられる**質問に対して説明**をすることで、身近に感じたり自分の認識や問いが深まったりする。

もうひとつ、近所にお住まいの卒業生、宇佐美広治さん96歳を授業に招いて**お話を聞いた**。84歳違いの同窓生の話（抜粋）。

- トイレは、肥料にする糞を畑に持っていきやすいよう屋外にあった。おしっこを道端でするともったいないと言われるくらい何でも利用した。
- 水道がないので、竹の節を抜いてつないで沢の水を引いて使っていた。
- 毎月15日は「お日待ち」と言って、皆で集まってまんじゅうをつくって食べた。とても楽しかった。
- 家の手伝いは当たり前。大人は朝4時頃から炭を焼き、背負って山を降りたりすることも多かった。1回15時間くらい働いた。子どもは薪拾いなどをして手伝った。大人も子どもも一心同体で一緒に働いた。
- 切ない貧乏な暮らした。
- 校庭の石積みの段は、子どもを含む住民で川から石を運ぶにつくった。今でも堅牢だ。

話はなかなか尽きない。だが、テレビやネット上の出来事ではない、**目の前にいる人から聞く**自分たちが生きている町の話に、皆引き込まれていった。

そして、子どもたちが一つずつ、宇佐美さんへの質問を投げかけた。どんな給食だったのか、どんな遊びをしていたのか、学校はどんな様子だったのか。ここでも**問うことで問いが深まる**。問うためには、考えなければいけない、知らなければ問えない。

そして、探究の学習で自分が奥多摩について調べてみたいことをどのように**掘り下げていくか**考えてみた。問いを立てるということは、簡単そうでなかなか難しい。



宇佐美さんと石積み

宇佐美さんは、石を積んでいる古い写真（上）をご覧になって「ああ、これは、私がつくったんです、川から石を運んでつくったんです」と懐かしそうに話してくださった。下の写真は現在の石垣の様子。

4 調べたことと問いの関係

問いを深める

調べる方法も大切だ。今回は、図書支援員の先生にも参加していただいた。**図書室に保管**されている昭和初期の教科書や古い写真を見せてもらった。その中には、宇佐美さんから話を聞いた80年以上前の子どもたちが多摩川から運んだ石で石積みをつくっている写真もあった。図書室にはいろんなものが詰まっている。「**調べる**」の始まり。

そして、子どもたちは気になったこと、疑問に思ったことを**短冊**に書いて窓に貼ってみた。まず、第一歩だ。奥多摩の自然、水や川魚や木々、そして学校のこと、獅子舞のこと、祭りのこと、星空のこと。一人ひとりからいくつかの**項目**が生まれた。だが、これらは、まだ「問い」ではない。そこで**項目を問いにする**にはどうしたらいいの？

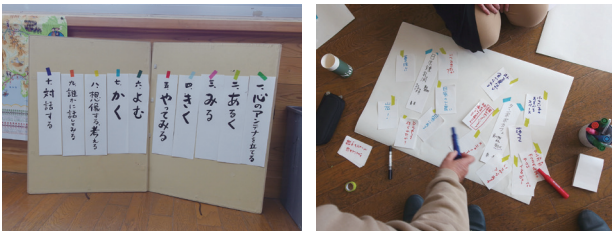
子どもたちは窓に貼った自分の項目について、クラスの人々に**説明し意見を求め**、寄せられた質問やアイデアを一回り小さな紙に書いて貼ってみた。そうすると、例えば「獅子舞」という項目に対して、「日原の」獅子舞や、獅子の「衣装」など、獅子舞を**細分化する視点も共有**される。あるいは、日原の獅子と大氷川の獅子は着ているものが違う、という気づきにもつながる。また、奥多摩の「神社」にはそれぞれ異なる「獅子舞」があることから神社と獅子舞のつながりへの疑問も生まれる。

項目と項目の関係が少し見えてきたり、もう少し詳しく考えてみようとなることが問いにつながる場合もある。項目を少しずつ**分解し**、それらの**相互の関係や重要性**などを考えながら、探究を推し進めていく。



古い資料

図書室には明治、大正、昭和の時代に使われた教科書やノートが寄贈されている。中には隅の方に落書きがあるものや、和紙の手触りや木版画による印刷らしき風合いがあるものも。何よりもとても大切に使い、保管されてきたことがわかる。



5 伝えてみる

問いを外に出してみる

自分の探究のテーマと内容を**人に伝える**。一つひとつの問いにはそれに即した探究の方法がある。また自分の問いをどのようにしたら自分の思うように人に伝えることができるのか？**問いを表す方法**も大切だ。さらに、探究の過程や成果を**自分以外の眼差し**で見てくれる人の存在は大切だ。**違う見方**や知らないことを教えてくれる。

項目の短冊と皆の意見を書いた紙を**手がかり**に、一人ひとりが自分の探究のプレゼンテーションを下書きしてみる。テーマが決まっても調べ方が分からない、表し方が分からない、ということはあることだろう。だがこれまでの授業で、時間や空間のこと、伝えるためにさまざまな図鑑などをみてきたことが**少しずつ現われ出る**。調べるために図書の先生に相談する、町の図書館で町の文化財にあたっていたと、地域の方に助言をいただく、これまで小学校で体験してきた調べ学習の**成果を見直す**などなど！

表現においても、川の流れのメタファーや写真や紙を貼るだけでなく、**実物を用いた表現**などが生まれてくる。縦180cm×横90cmサイズのダンボールにそれぞれ展開した。

問いを自分以外の人に伝える。発表を受け止めてくれた人から発せられる質問や感想はとても大切。自分では気がつかないことがたくさんある。新たに生まれる質問や疑問。それらを受け止めることで、**再び探究が深まっていく**。



発行日 2025年(令和7年)3月31日

制作 特定非営利活動法人アートフル・アクション

執筆 宮下美穂(特定非営利活動法人アートフル・アクション)

デザイン アサノリエコ

写真・編集協力 HATO文化編集部

発行者

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス5階

電話: 03-6256-8435 FAX: 03-6256-8829 www.artscouncil-tokyo.jp

本書に関するお問い合わせ先

特定非営利活動法人アートフル・アクション

東京都小金井市本町6-5-3シャトー小金井2F

TEL, FAX: 042-316-7236 mail:artfullaction.net http://artfullaction.net/

＊「多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting」は「東京アートポイント計画」として実施しています。東京アートポイント計画は、社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すためのさまざまな「アートポイント」をつくるために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、地域社会を担うNPOとともに展開している事業です。実験的なアートプロジェクトをとおして、個人が豊かに生きていくための関係づくりや創造的な活動が生まれる仕組みづくりに取り組んでいます。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人アートフル・アクション

＊本書の無断複製、複製、転載を禁じます。 ©2025 npo artfull action

奥多摩学習の日々

2月の初旬から、縦・80cm、横90cmのダンボールのパネルに、ひとりひとりが自分で決めたテーマ、そのテーマを明らかにする項目を描き始めた。地域の方や図書室の先生が参加し、奥多摩の資料を揃えてくださった。また、子どもたちからの質問に対応すべく町の図書館にかけ、資料を用意してくれた。校長先生や副校長も授業に参加し、学校にある資料も出してくれた。子どもたちは、図工室や音楽室でいろいろなことを話しながら、寝そべったり、立ち上がったりの大きな面に向き合った。

この授業では、探究すべき問いを見出すこと、そして、自分が考えたことや探究したことを周りの人に説明し、質問や意見を受け、内容を更新していく。子どもたちは授業に参加した大人だけでなく、友だちからの意見にも耳を傾けた。自分ひとりで考えているときの気づきと、人に説明をし、いわばその反照を受けて再び考えていく時間には大きな違いがある。異なるテーマを追求しながらも、例えば神社と獅子舞など関係し合う内容について、調べた人同士で対話することもと深まるという可能性も見えた。先生からは「自分だけで苦しかったら、友だちに振ってもいいですよ。共通して知っていることは、友だちに振りましょう」という助言もあった。

奥多摩学習を終えて、担任の峯岸先生が子どもたちに向けて次の項目について感想を聞いてみた。

- ①下中さんと関わって
- ②屏風作りをしてみても
- ③発表してみても
- ④学習全体を振り返って

すいさん

テーマ 氷川小学校の獅子

氷川小学校の獅子舞の歴史を調べた。どのようなきっかけで始まったのか、知ることができました。

①川で地域がつながるかもしれないとわかった。 ②調べたいと思ったことを調べることができた。 ③奥多摩のことを知らない人たちに少し知ってもらえたからよかった。 ④最初は川のことから始まって、最後には一つの屏風としてつくることができた。一つのことから昔のことにつながっていった。最終的には奥多摩のことを知らない人を知ってもらえたのでよかった。

小峰さん(奥多摩町民) 昔は、図工の時間に獅子頭と太鼓もつくっていた。昔は年度ごとに、境の人、川井の人など、お祭りを実際にやっている人が指導に来てくれた。

はるはさん

テーマ 奥多摩の坂と自然

奥多摩の自然と坂道について調べてみた。白丸の石量や愛宕神社の石段、そのあとに続く鰻尾根について調べた。

①奥多摩と六郷が多摩川でつながっているのはすごいと思った。 ②意外に坂とか自然のことを知らなくて、調べるのが大変だった。 ③何も知らない人に発表するのは難しかった。 ④奥多摩のことを知らない人に発表するために自分が知らないことを調べて、自分もわくわくした。

小峰さん 白丸の敷石を選んだということなので、大変でしたね。どうやってきたかも調べてみたいと思います。

※奥多摩駅のひとつ手前の白丸駅北西側にある古い集落。

るいとさん

テーマ 奥多摩の今と昔!! (歴史)

奥多摩の建物、食べ物、一松、人口をテーマに、昔と今を比べてみた。パネルのデザインは、川が上流から下流に流れる様子を時間が変化することに見立てた。

①あまり知らなかった奥多摩のことがわかった。昔の奥多摩のことも知ることができた。 ②より深く奥多摩のことを知ることができた。奥多摩以外とのつながりも知ることができた。 ③他の人との関わりやつながりを知ることができた。 ④今までにない学習ができた。宇佐美さんの話を聞いて、楽しんで学習することができた。

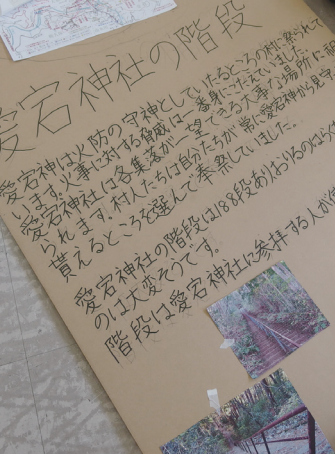
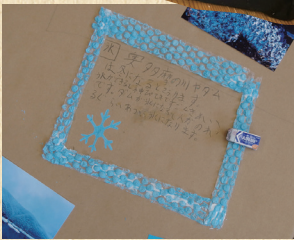


はるなりさん

テーマ 奥多摩の自然

奥多摩の山の紅葉や桜が綺麗なところとダムと山の風景が美しいことを表現した。また、奥多摩の季節ごとの動物の様子も調べた。

①いろいろなアイデアをもらえた。 ②発表を聞いてもらって相手のことを考えて文章を書いたり写真を使ったりした。 ③奥多摩を知らない人に向かっている発表なので、どんな工夫ができるのかを考えた。 ④奥多摩を知らない人を知ってもらえた。



あかりさん

テーマ おくたまの空

奥多摩の冬の星がどうして綺麗に見えるのか、夏の夕焼けが赤っぽい色、冬の夕焼けが黄色っぽいオレンジ色に見える理由を調べた。

①自分では思いつかないことをアドバイスしてもらった。 ②調べたことを屏風にまとめるのが難しかった。 ③もう少し大きな声で話したかった。 ④知らない人にも分かるように文章を考えるのが難しかった。写真を貼って、どんな様子かを分かるようにした。



あさひさん

テーマ 三本杉

三本杉を見るとホッとする。奥氷川神社の御神木の三本杉について調べてみた。

①自分の想像できないことを出てくる人だった。 ②難しかったけれど、屏風が形になってくるとつくっている実感がわいた。 ③指をさしながら発表したり、質問をしたり、アドリブで話したりすると、相手に興味を持たせることができた。 ④最初は、難しくなかなか進められなかったけれど、最後は終わらせることができた。

さらさん

テーマ 引き継がれていく氷川獅子

氷川小学校の獅子舞の歴史について、獅子頭や笛、囃子棒、ささらなどの道具を今と昔と比べて表現した。

①知らないことをたくさん知ることができた。 ②友達や先生たちと関わりながら屏風をつくることができた。 ③奥多摩を知らない人にも伝えることは難しいと思った。 ④奥多摩に住んでいても、奥多摩を知らない人に伝えるのはむずかしかった。

峯岸先生 昔の様子を氷川小の先輩方聞いてみてもいいかもしれませんね。



かのんさん

テーマ 日原鍾乳洞

日原鍾乳洞の歴史やどのようにしてできたのかを調べた。2025年に行われる鍾乳洞サミットについて、町の観光産業課の方にもインタビューした。

①六郷と奥多摩が多摩川でつながっていることを知ることができた。 ②今まで知らなかったことをもっと知ることができた。一人一人の色を出せた。 ③奥多摩のことを知らない人に説明するのは難しいと感じた。そのため説明を詳しく書く力がついた。 ④知らなかったことを知ることができたし、最後にまとめることができてよかった。

下中さん もっと謎を見つけないと話していましたね。素晴らしいと思います。



こしろうさん

テーマ 丹波山村の祭り

丹波山※と奥多摩の獅子を比べてみた。

①奥多摩を知らない人に伝えたことで自分の中で整理された。 ②みんなが分かるように発表するのが難しかった。 ③難しかったけれど奥多摩のことを知ってもらえたよかった。 ④もっといろいろな人に奥多摩を知ってほしい。

副校長先生 違いと同時に、つながりも調べると面白いかもしれません。

※奥多摩町に隣接する山梨県の村で、多摩川の源流域のひとつ。



すみれさん

テーマ 神社地図

神社と地図を組み合わせて場所と内容を知ることができるようにした。奥多摩のことを知らない人に見せるのに、地図にした方がわかりやすいかな、と思った。おすすめの神社は、奥氷川神社で、三本杉と一緒に楽しめる。海沢神社は景色がきれいだ。

①反芻が大事だと思った。 ②まとめるのが難しかった。 ③言葉で表すのは難しい。 ④調べるためには本や教科書が役に立つと思った。屏風にしてみるようなまとめ方があると知った。奥多摩のことを知らない人に教えることで頭の中が整理された。

峯岸先生 獅子舞の研究をした人と一緒にまとめる神社同士のつながりなども見えてくるかもしれません。

